第7回 学習活動の基本スキル(1)

図書や文献を読むときの態度（スタイル）

資料を読み解くことを通して、自分なりのテーマと問題提起をして議論する仕方を学びましょう。そして、知識の習得と、自分独自のテーマ・問題の発見をする力を養いましょう。

読み方のスキル

- 速読：内容全体をさっとと見通して、その後にその文献での主張を把握し、評価する
- 精読：ノートを取りながらひとつひとつの文章、論理をじっくりと正確に読み取る

今回の授業では、「精読」で文献を読むことを取り上げます。

目次や序文・結論から全体を把握する

目次	内容の展開、書かれている順序・構成を把握できる
序文（まえがき、はじめに）	その文献の背景、著者の立場や主張したいポイント、対象としている読者層
結論（あとがき、まとめ）	著者による要約（全体のまとめ）、あらためてアピールしたい重要なポイントなど
索引（インデックス）	全体から重要な語句が抽出されて、整理されている

要約してまとめる

文献の要点を的確に読み取り、その主張や意見を手短にまとめるのが「**要約**」です。的確な要約をするには、内容を十分に理解していなければできません。要約の練習をすることで、読み解く力を身につけることができます。

パラグラフに注目して読み解く

パラグラフの日本語訳は「段落」ですが、文書全体の役割上、「パラグラフ＝段落」ではありません。

- **形式段落**：文頭の一文字が空白で始まる、ひとまとまりの文章
- **意味段落**：一つ以上の段落で構成される、**意味上のひとまとまりの文章**

パラグラフには次のような特徴があるので、読み解くときに注意しましょう。

1. **ひとつのパラグラフには、ひとつの意味や大事なポイントがある**（大原則）
2. 重要なポイントは、段落の冒頭や末尾にあることが多い
3. 接続詞や形式段落をつなげる文章に注意して、段落同士のつながりを見る（つながりがある　パラグラフ）

種類	働き	接続詞の例
付加	別の要素を付け加える	そして、しかも、さらに
理由	理由や根拠を述べる	なぜなら、というのは、その理由は
対立	反対の要素を述べる	しかし、けれども、反対に、
転換	話のながれを転換する	～だが、ところが、むしろ
出発点・並列	同じ要素を述べる	まず、第一に、第二に、第三に、同様に
例示	具体例を示す	たとえば、その一つが～
解説	わかりやすく説明する	すなわち、いいかえれば、つまり、要するに
帰結	理由や原因の結果を示す	～ので、～から、だから、したがって、それゆえ
補足	説明を補う	ただし、ただ、もっとも

キーワードやキーセンテンスに印をつける

- **キーワード**：ひとつの段落や章・節のなかで、繰り返し出てくる重要な語句
- **キーセンテンス**：キーワードを含む文章、重要なポイントと思われる文章

蛍光ペンや付せんなどで、キーワードやキーセンテンスに印をつけておけば、理解を深めたり、効率良く読み解くのに役立ちます。

要約して内容を整理する

- 正確に読み解けているかを確認するために、要点を押さえる
- 自分で勝手に意味をつけたり、見当違いの解釈をしないようにする
- 段階的に要約していく（要約の過程で、解釈に必要となる部分のみをまとめる）

〈段落・パラグラフの要約〉→〈節・章の要約〉→〈文献全体の要約〉

要約の大まかな手順

1. パラグラフのつながり（接続詞など）に注目して、全体の構成を把握する
2. パラグラフ（または、節・章）ごとに、キーワードやキーセンテンスを見つける
3. キーワードやキーセンテンスをもとに、パラグラフ（または、節・章）ごとにまとめる
    - 並び替えや言葉の言い換えをしてもよい
4. まとめたものを適切につないで、要約を完成する

文章を読み解く

文章を読むときには、キーワード（カギになる語句）やキーセンテンス（カギになる文章）、段落をつなげる言葉（接続詞など）に気をつけることが大事です。さらに、次のような文章の構造にも注目しておきましょう。

トピック・センテンス

パラグラフ（意味上のひとまとまりの文章）は、ひとつの話題（トピック）についてだけ扱うという特徴があります。これを「**1パラグラフ 1トピックの原則**」といい、論理的な文章（レポート、論文など）はこの原則にしたがっています。

そして、そのパラグラフで書いた人が主張したいこと（トピック）を説明する文章を、「**トピック・センテンス**」といい、パラグラフの中で重要な部分です。一般的には、パラグラフの最初に書かれています。各パラグラフのトピック・センテンスを読んでいけば、大まかな内容を読み取ることができます。

議論の展開

議論の展開（話のつながり）には、さまざまなタイプがあります。ここでは、よくある議論の展開を3つのみ紹介します。

【弁証法的展開】

正（命題）・反（反対命題）・合（総合）の3つの部分からなる展開で、古典的なタイプです。あるテーマについて、自分の意見（正）と、それに対立（または矛盾）する意見（反）を述べ、2つの意見を総合して新たに導き出された意見（合）を述べます。

【因果による展開】

まずテーマとなっている事実や事象を述べたあと、その原因を明らかにし、さらに原因から生じた結果を示して、最後にテーマに対する解決策を示すというタイプです。

【比較による展開】

あるテーマについて2つのものを比較・検討するために、まず2つのものの共通点や類似するところを述べ、次に相違点を述べて、最後に全体を総合的に説明するというタイプです。

事実と意見の区別

文章には、「**事実**」と「**意見**」が混ざっています。文章を読み解くためには、これらを区別することが重要です。

事実とは、出来事や誰もが知り得る情報など、客観的（誰が見ても同じように受け止めるられる）なものです。また、意見はどちらかといえば主観的（その人だけが考えたり感じるかもしれない）なものです。

しかし、意見の中にも、「**客観的な事実**」を根拠とした意見、つまり「**事実に基づいた意見**」があります。この「客観的な事実」と「事実に基づいた意見」を明確にすることで、書いた人の考えを読み解くことができます。

参考文献

- 藤田哲也編著「大学基礎講座 改増版」, 北大路書房(2006.03)
- 中澤務・森貴史・本村康哲編「知のナヴィゲーター」, くろしお出版 (2007.04)
- 学習技術研究会編著「知へのステップ 第3版」, くろしお出版 (2011.04)
- 専修大学出版企画委員会編「知のツールボックス」, 専修大学出版局 (2006.04).
- 佐藤望編著, 湯川武, 横山千晶, 近藤明彦「アカデミック・スキルズ」, 慶応義塾大学出版会 (2006.10).